

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームほろむい二号館(ゆたか荘)	評価実施年月日	平成20年7月1日～7月31日
評価実施構成員氏名	福平由香・仁平美奈子・清水美子・秋山千佐子・林英子・高橋美加子 (ゆたか荘)		
記録者氏名	福平由香	記録年月日	平成20年8月24日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取組んでいる。</p>		<p>開設時、町内の集会に出向いて、説明及び理解を得ている。また、これから入居される際にも本人及び御家族に地域の中で暮らすことの重要性をお話しさせていただいている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		<p>散歩途中に出会う近所の方との挨拶、こちらからばかりでなく交わらせることが増えてきている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>町内会に加入しており、行事参加もしている。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取組んでいる。</p>		<p>町内会に出向き「高齢者介護について」の講義等を行ったことも何度かあるが、その他、あまり取組んでいない。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全スタッフで話し合いのもと、評価を実施しており、少しずつ理解が深まっている。改善においても、可能な限り取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月に一度のペースで行っている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議の議事録、またグループホームのお便りを届けると共に、話しをさせて頂く機会を設け、氏との繋がりに努めている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	外部研修にて、地域権利擁護事業、および成年後見制度についての講義を受ける等、学ぶ機会を持っている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	不穏、暴力(暴言)行為のある方への対応等、話し合い、声掛け、対応に配慮し、虐待行為が発生しないように注意を払っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、説明をし、不安、疑問点をたずね、理解、納得を得て署名をいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満等、話しやすい雰囲気をしたり、いつでも会話の中から聴くことが出来るよう努め、また、その都度対応している。なかなか話してこない方にも機会を設け対応している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	御家族の来荘時には、変化の有無を問わず、近況報告をしている。体調等の変化があるときは、都度、報告している。グループホーム便りを隔月で発行し、暮らしぶりをお知らせしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情箱を設置している。また、ご意見、ご不満、相談等があれば、お話して頂けるよう、気軽に話しかけやすい状況、雰囲気作りを心掛けている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット内では、会議の場を設け、意見、提案し合う他、問題発生時には、その都度、話し合いを設けている。ホーム長会議では、各ユニットの問題点、行動、その他を話し合い、他のスタッフへ伝えていく。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況により、シフト変更する等で調整をしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	スタッフ6名体制であるが、移動等によりスタッフメンバーの変更があっても、複数名で変わることはなく、利用者に不安を与えないよう対応にも配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>施設内で月1回5名定員の普通救命講習を行っているほか、施設外での介護研修等を毎年数名受講している。また、市内で無料講習等がある場合は、全ユニットに回覧し、情報提供を行っている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>現在、同業者との間でネットワーク作りや勉強会の話が出ているが、まだ実現には至っていない。また、営業を兼ねて、施設長自ら他のグループホームに伺い交流を図るよう努力している。インフォーマルな部分において同業者と交流し情報を得ている程度である。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>全体では、年に2回程度、親睦会を実施している。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>運営者が管理者や職員個々の希望の基に勤務シフトを作成を行い、また作成した後も職員個々とコミュニケーションを図り、職員の勤務の現状と体調を考え修正を行い、作業環境を整えている。また、職員が現状に留まる事の無いよう研修を受けさせる等の資格等のスキルアップ支援を行っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>日頃から会話や表情等から察知できるように努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>来荘時には、こちらから必ずお話しをし、また、御家族の方からも気軽に話しやすい雰囲気を作り、信頼関係の養成に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要に応じて、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	安心して過ごして頂けるように、寝具や身の回りの物は家族と相談してできるだけ使い慣れた物にしてもらっている。他の利用者とも溶け込めるように食卓の配置を考慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	出来る範囲内で、スタッフと一緒に料理の下ごしらえ、掃除等を行っている。昔からの慣わしや季節の行事、生活の知恵等を教わる事も多い。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と職員との情報交換により、利用者に対して適切な支援ができるように努めている。行事がある時はかぞくにも声掛けし一緒に楽しんでいただいている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員は利用者と家族の中間にイチし、お互いの思いや状況を聞き、伝え、良い関係を保てるように努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や知人等の来訪者の対応を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	午前と午後にお茶の時間を設け、皆で会話やゲーム等を楽しめるように、情報の提供や指導をしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後も、「何時でも相談、連絡を下さい」との声掛けや挨拶を行い、こちらからも家族宅に向向いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との会話や行動のなかから、希望や意向を把握し、なるべく添えるよう努めている。	○	不穩時の外出等、突発的な行動においては、個々の状況に応じた対応を、その都度できるのが理想であるが、他者介護の関係、また、スタッフ人数、勤務体制上、現状では厳しく、対応し切れていない。事務所、スタッフの協力も得ているが、できるだけ対応できるように努めたい。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報、本人の話等から、居間までの生活の状況を聞き記録に残すようにしている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	常に見守りを行い、心身の変化や体調の変化を見逃さないようにし、また、生活の経過表に記入することによって、スタッフ間の情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	できるだけ家族の意見、本人の希望を反映するようにし、本人の状態に適した計画の作成を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的なミーティング(月1回)、毎日の業務内での意見交換を行い、介護支援専門員への相談の基、介護計画の見直し、計画案の作成をしている		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、個別に生活経過表に生活の様子を記入しファイルに保管、生活状態等の変化をチェックしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の要望を考慮した上で、通院や送迎、ディサービス利用者との交流等の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議において、地区連絡会長や民生・児童委員の方々からお話を頂いたり、慰問やボランティアなどの協力を得ている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要に応じて、利用者にとってどのような支援が必要か話し合い、検討している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて、その都度、相談やアドバイスをいただくようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回、提携のクリニックから往診に来ていただいている。また、希望や必要に応じてドクターの相談のもと、他の医療機関への受診を行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門ドクターはいないが、提携クリニックのドクターの協力のもと、症状に見合った治療を受けられるように支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	スタッフに看護師がいるため、常に情報交換をし、提携クリニックのドクターに相談報告をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	スタッフが面会に行き、本人の状態を確認、病院関係者や家族と情報交換を行い、早期退院に向けて対応している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	常に身体状況の変化において、スタッフ、本人、家族と相談、検討を行っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の要望を踏まえ、希望に添えるよう相談、検討を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居室へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人や家族と相談し、居間までの生活状況にできるだけ近い環境をつくるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーに関する話しであれば、個々の居室での対応をしている。記録等、個人情報の保護に務め、ファイルにて保管している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の性格を考慮した上での声掛けを行い、意思を聞き出せるよう対応している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の生活リズムに見合うよう対応しているが時間によっては全てが全て希望に添えるということにもならず、職員体制を考慮した上での支援となることもある。	○	一部の方々の重度かとともに、介護に要する時間が増えており、他者との団欒やゆとりある対応が難しくなっている。体制の見直し等支援方法の工夫が必要であり、検討していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月1回の訪問理容を行っている。希望があれば、外の理容院を使用できるよう支援している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の希望や状況にあった内容で、可能な限り調理の素材の下ごしらえ、準備等、食事が楽しくなるよう支援している。後片づけは、テーブルのトレーにおいてもらう。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコは他の利用者に迷惑にならないように、さり気なく声掛けをして楽しんでいただく。おやつ等も前日と同じ物が重ならないように工夫している。	○	糖尿病、他病状、体調を考慮し、ドクターとも相談しながらできる限り好みの物を楽しめるよう支援している。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の排泄パターンを把握し常に清潔を保つ、排泄の失敗は利用者の心を傷つけないよう声掛けをし、改善、工夫する支援をしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員のシフトに組み入れる為、時間帯、人数は制限される。	○	重度化された方には、二人体制で介助もしくは、本人の安心される介助方法、希望も組み入れ、個々に合わせた対応をしている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者の生活パターンを把握し個人の部屋は、束縛しない、居間も自由に解放している。テレビ、ラジオの音量等は、20時を目処に注意が必要であればさり気なく傷つけないように声掛けをする。	○	ラジオ音にて安眠される方も居り、個々が入眠しやすい環境へと気配りしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	デイサービスの催し物に参加し、天気の良い日は散歩ができるようし円しています。	○	楽しみ事が持てるように、行事の参加、皆での外出が困難なことから出前を摂る等の工夫をしている。また、御家族の協力も得て、気晴らしに外出される方もいらっしゃいます。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者自身で管理が行える人に限る。	○	自己管理できない方、手持ち金が無いと不安になる人に関しては、ある程度の金額範囲において所持できるように支援している。買い物等は、希望により注文を受け、定期的にまた、必要時随時職員が対応している。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の身体状況に合わせて、家族もしくは職員が同行する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間の行事、季節の催し物、月1回のオンセンツアー等の参加を支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者の郵便物の投函、ご自宅への電話を掛けるときの支援をしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、友人等が訪問されたとき、職員は明るく挨拶し楽しんで頂けるよう環境作りを心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関に鍵を掛ける、歩行が困難であるから寝たきりにする等の身体拘束は行わない支援を実践している。ホームの方針を全てのスタッフが正しく認識し、身体拘束は一切行わないケアを行っている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関に鈴を付け、出入りは音で確認する。一人での行動が困難と考えられるとき、さり気なく声掛けしたり職員が行動を共にし、利用者の気持ちを理解する支援を行っている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の平野には無断で入らない。行動が不安定な方については、由香センサー、スズ等のそれぞれの特徴を把握し事故を起こさない為に、さり気なく声掛け、見守りをして安全に心掛けている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	電気ストーブの使用後は、職員が必ず点検し、ハサミ、カッター等は自己管理されている方もいますがきぼんてきには、ユニット内のスタッフ専用カウンターの引き出しにて保管している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	誤薬防止は職員間で徹底し、本人と本人の薬であるか声を出して名前を呼び確認する。特に注意が必要とされる方は飲み終わるのを確認する。 車椅子、手引きの方が行動する時は注意深く見守る。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命講習(社内研修による緊急対応の講習)が実施されている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難誘導、消化器の使い方を学んでいる。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族にリスクを説明し、了解をいただきながら個別に対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日頃からこまめに様子観察し、体調変化、異変発見時は速やかにホーム内の看護師に連絡を取り対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬手帳を作成している。服薬内容は、ファイルに納めスタッフ間にて情報共有している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の野菜等は、柔らかく調理、また、きざみにする等のようにするようになるべく摂取しやすいように		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、イソジンを使用しての歯磨き、うがいを実施し、職員による口腔内チェック及び、入歯洗浄剤を使用して義歯を手入れし、清潔保持に努めている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の際の声掛け、見た目で摂取したくなるような調理方法、盛りつけ等を工夫している。水分不足気味の入居者には、細めにお茶等を提供し、水分量の摂取に努めている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種の実施。感染症対策委員会の資料を基に、ブリーチを薄めたの拭き掃除等、感染予防に努めている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒マニュアルに基づき、食材の管理及び調理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関口、及び建物周辺には、草花を植えている。また、中庭において通年、緑を楽しめる等、家庭的な雰囲気を作るよう努めている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食卓テーブル、ソファ等の位置を工夫している。季節の花を飾ったり、入居者で作った物を壁面に飾ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの位置、ソファのむき等に配慮している。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いたくしたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたベッド、タンス等を持ち込み、写真を並べる等、落ち着いて、安心して過ごせるように配慮している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	窓を開放し換気に努めたいが、拒否される入居者も居るため困難な面がある、各々の部屋の位置関係により温度差もある。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	館内廊下、トイレの手すりの設置、浴槽内における滑り止めマット使用等により不安軽減の工夫を行っている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	結ったりとした気持ち、わかりやすい言葉掛けにて対応し、自力を促すように努めている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	草花や野菜等を多く植えているため、ベランダから眺めたり、野菜を収穫したりして楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)